



新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

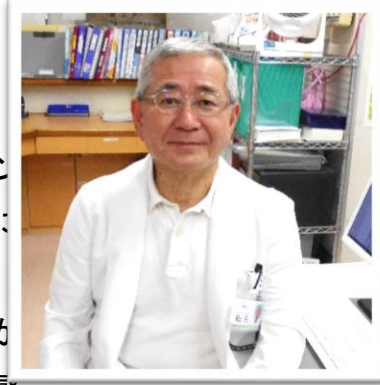
年齢のせいだか1年経つのがあっという間で、宇部リハビリテーション病院の院長として1年間なんとか無事に務める事ができたのは、本当に皆さまのおかげと感謝申し上げます。

今まで、当院での新型コロナのクラスター発生はありませんでしたが昨年暮れに病棟でクラスターがでるなど、昨年も新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に振り回された1年でした。

ウイルスが変異する度に、病原性は弱まっているようで、「感染症類型で、いつ2類から5類なるのか? 8波の次に9波は来るのか?」という話題も囁かれるようになりました。一方で、逆感染力は強く、病原性×感染力は大きくなり、亡くられる患者さんは増えています。コロナはエアロゾル感染が有力と言われ、換気の有効性が強調されていますが、これからも油断せずにワクチン接種と予防策(うがい、手洗い、マスク着用、3密を避ける等)を今まで通り続けるのが個人としてのベストな感染対策と思います。

さて、昨年は1年かけて、病院として「中長期計画」づくりの論議を院内で続け、昨年暮れに「宇部リハビリテーション病院の中長期計画」を完成させました。今年は、中長期計画の具体化に向けて始動する最初の年です。計画の中身は、一言で申せば、「地域の人から選ばれる病院になるために、医療内容と建物を刷新し、職員一同気持ちを一つにして、目指す医療を行っていく

病院長 松永 信



小児リハビリテーションについて勉強会を行いました

当院では、以前から小児リハビリテーションを行っています。当初はS T(言語聴覚士)のみでしたが、その後P T(理学療法士)・O T(作業療法士)も配置されてきました。

現在では、月に延べ約220名の患児がいますが、そのうち6割以上が発達障害です。また宇部市内でも発達に問題を抱える小児が700~1000名と聞いております。

そこで、現状を把握するために、山口大学大学院医学系研究科医学専攻小児科学講座 松重武志先生を講師としてお迎えし「神経発達症の理解と対応」について講義していただきました。

- 神経発達症の受診の件数は増加の一途をたどり10年間で10倍近く増えていること。
- 最近の新たな問題として、コロナ禍と不登校の増加は潜在的ハイリスクの子と環境変化によること。
- ネット依存やゲーム障害の増加は、こだわりや過集中のある神経発達症と親和性が高いこと等々でした。
- 自閉スペクトラム症・注意欠如多動症(ADHD)については事例を通じて分かりやすく説明をしていただきました。
- 対応の基本としては褒めるきっかけを作り、過ごしやすい環境作り、余計な刺激は少なく、指示は簡潔に一つずつ伝えるなどでした。



~今年はみんなの笑顔が見れますように~

新年あけましておめでとうございます。

コロナ感染拡大4年目に突入しました。当初は恐れる事ばかりの対応からウイズコロナへの移行となりましたが、病院・施設等においては面会制限が依然と続いています。患者様とご家族との交流が阻害され、入院中の患者様の状態も電話連絡だけで本当に病状への理解不足に繋がっていると考えています。いつまで継続されるのか、しかしながら入院患者様の安全を考えるとなかなか難しく、働く職員については日常的な行動抑制も強くなりストレスの多い年でした。

今年は、癸卯年です。「癸」は生命が終わった状態、これから新たな生命が成長しようとしている状態を表していると言われてます。十二支の「卯」には草花が地面を覆っているような状態を意味しています。「癸卯」はこれからの成長が見られる年で努力がみのる年です。いままでのコロナ禍での精神的抑圧からこれまでの経験を活かし新たな対応ができる年になるのではないかと考えています。ここで看護部ではより良い看護・介護が提供できるよう努めていきたいと思ひます。

看護部長 西島 陽子



大人も子供もそれぞれの特性をしっかり周りが理解することが大切ですね。私たちも少しでもリハビリに通りやすい環境作りに努めていきたいと思ひます。

